

令和 5 年度

第 3 回海老名市総合教育会議

海老名市総合教育会議 会議録
(令和5年度 第3回)

- | | | | | | |
|---|-------|--|-------|---------------|-------|
| 1 | 日 付 | 令和5年11月25日(土) | | | |
| 2 | 場 所 | 神奈川県立海老名高等学校 | | | |
| 3 | 出 席 者 | 市長 | 内野 優 | 教育長 | 伊藤 文康 |
| | | 教育委員 | 平井 照江 | 教育委員 | 海野 望 |
| | | 教育委員 | 濱田 望 | 教育委員 | 武井 哲也 |
| 4 | 事 務 局 | 理事(教育担当) | 小宮 洋子 | 教育部長 | 中込 明宏 |
| | | 教育部次長 | 江下 裕隆 | 教育部参事兼教育総務課長 | 西海 幸弘 |
| | | 教育部参事兼就学支援課長兼指導主事 | 山田 圭 | 就学支援課学校給食担当課長 | 山崎 淳 |
| | | 就学支援課健康給食係長 | 加藤 謙次 | 学び支援課長 | 松本 晃子 |
| | | 学び支援課主幹兼係長 | 中島 裕子 | | |
| 5 | 開会時刻 | 午前10時00分 | | | |
| 6 | 協議事項 | (1) 保護者負担経費軽減策の充実
(2) ライフ・スタディサポートの推進
(3) 特色ある図書館運営の推進 | | | |
| 7 | 閉会時刻 | 午前11時45分 | | | |

○教育部次長 皆様、おはようございます。定刻になりましたので、ただいまより、令和5年度第3回海老名市総合教育会議を開会いたします。

本日、司会を務めさせていただきます海老名市教育委員会教育部次長、江下と申します。どうかよろしくお願いします。

今回の総合教育会議ですけれども、神奈川県立海老名高等学校様のご協力により、ここ海老名高校で開催することとなりました。高校生も交えていろいろなご意見を聞かせていただきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

会議開催に先立ちまして、配付資料の確認をさせていただきます。ご用意いたしました資料は、A4紙の本日の会議次第とツーアップで印刷されております協議事項資料、それと、別紙化しておりますが、A4サイズですけれども、教育大綱の抜粋になっております。それと、海老名高校生徒会役員の皆様が作成いたしました海老名高校の学校生活紹介となっております。過不足等はありませんでしょうか。大丈夫でしょうか。

では、協議事項につきましては、会場正面向かって右側のスクリーンに投影いたしておりますので、そちらでもご覧になることができます。

また、先ほどもアナウンスさせていただきましたが、この会議全体を通しまして、海老名市ユーチューブチャンネルにてライブ配信をしております。何とぞご了承願います。

それでは、会議に移らせていただきます。

進行につきましては、お配りしております次第に基づき進めさせていただきます。

本日の会議の流れですけれども、第1部として協議事項、内容につきましては教育大綱の取組として3点、その後、休憩を挟みまして、第2部として海老名高校の生徒の皆様による学校紹介などの発表を行わせていただいた後、市長、教育委員の皆様との懇談を行っていただく予定でございます。

それでは、始めさせていただきます。

次第の2、あいさつでございます。海老名市長と海老名市教育委員会教育長からご挨拶申し上げます。

まず初めに、内野市長、よろしくお願いします。

○内野市長 おはようございます。令和5年度第3回の会議にお集まりいただきまして、ありがとうございます。今回の会場につきましては、海老名高校の校舎をお借りしております。校長先生、ありがとうございます。後ほど生徒の皆さんからの発表及び懇談をする予定がありますので、よろしくお願いいたしますと思います。

平成27年度からスタートしたこの会議であるのですが、私ども年4回ほど開催しております。それも市役所とか教育センターではなくて、こういった学校に出向いてという形を取っています。この方式を取っているのは県下でも海老名市ぐらいだと思っていますし、あるいは全国でもまれだと言われております。しかしながら、今日はいませんけれども、報道機関がなかなかこういったものに注目をしてくれないのは残念でありまして、大事なことののですが、報道機関が興味を示さない部分がありますので、そうしたこともPRしていかないといけないのかなとつくづく思っています。そういった面では、この会議で触れたこと、発表があったこと、それぞれ意見を聞いて、教育委員と私を交えての議論があります。それを聞いていただいて、時間がありまして、傍聴している皆さんからもご意見あれば承りたいと思っています。そういったオープンな会議でありますから、ご意見がありましたら、どうか遠慮なくよろしくお願いしたいと思います。

今日は議員がいらっしゃっていますけれども、議員は議会の場で発言できますので、その点はよろしくお願いしたいなと思っています。

短い時間でありますけれども、今日はどうかよろしくお願い申し上げます。

○教育部次長 内野市長、ありがとうございました。

続きまして、伊藤教育長、よろしくお願いします。

○伊藤教育長 おはようございます。総合教育会議に集まっていまして、ありがとうございます。校長先生、どうもありがとうございます。

教育施策というか、教育について、市長と教育委員会は分離した行政組織です。その前の法律では完全に別だったのですよね。ただ、予算権は市長が持っているので、お金が欲しくなったら私が市長に頼みに行くという方式があるのですが、それは別。でも、法律が変わって、市長と教育長が一緒になって話し合う場を設けて、公開するというのが法で定められています。海老名はそれに積極的に取り組んで、先ほど市長からありましたように小中学校とか地域を回って、今年は高校をお借りしているのです。県立なのですが、中央農業高校が終わって、今回海老名高校で、その次は有馬高校で行いたいということで。その意図は、海老名市を考えると、小中学生はもちろん、高校生の若い人たちがどんな思いでいるかということをお我々は知る必要があるのだろうなという思いで、今年は高校を回ろうと決めたところでございます。

この後、教育施策を、全部はできないので、ピックアップしたものを事務局が説明して、我々が話し合いますので、その様子を見ていただきたいと思います。

また、後半では、海老名高校の子どもたちが自分の学校の説明をしたり、様々我々と懇談というか、意見交換しますので、それを聞いていただきたいと思いますので、短い時間ですけれども、よろしくお願いいたします。

○教育部次長 伊藤教育長、ありがとうございました

それでは、次第の3の協議事項に入りたいと思います。

これからの進行につきましては、本会議設置者であります内野市長に議長をお願いしたいと思います。内野市長、よろしくお願いいたします。

○内野市長 それでは早速、協議事項の1、保護者負担軽減策の充実を議題といたします。

事務局から説明をお願いいたします。

○就学支援課長 それでは、新教育大綱、教育施策5つの柱のうち、新たな学校施設への取組と子育て環境の充実の④保護者負担軽減策の充実でございます。これにつきましては、使用頻度の低い彫刻刀や柔道着の購入費や小学校1年生及び中学校1年生の教材費の公費負担、中学校のジャージコンペティション等を行うなど、「海老名市保護者負担経費の在り方についての方針」に基づく、保護者負担経費のさらなる適正化を図るものでございます。

お手元の資料、一覧をご覧ください。教育委員会の保護者負担軽減一覧でございます。左が事業名、右が事業費（千円）となります。一番上、児童用ヘルメット（タタメット）配備については、これまで保護者の負担で購入を促していた防災頭巾に代わるものとして、タタメットを配備することで保護者の負担軽減を図るものでございます。事業費としては1659万円となります。

項目をざっと上から読ませていただきます。教材費補助金（新小学校1年・新中学校1年）、準・要保護の家庭に対する通学用品費、学用品費を支援するスクールライフサポート事業、使用頻度の低い彫刻刀や柔道着を公費により購入し、学校に配付する事業、学校管理下のけがにおけるお見舞金も含めて支給される災害共済給付金の掛金の公費負担、中学生のインフルエンザの予防接種に係る費用の補助、小学校給食食材費（物価高騰分）、小学校給食食材費（地産地消分）、中学校給食食材費（山路配食弁当分）、野外教育活動に係る費用の補助、修学旅行に係る費用の補助、最後、学童保育に通わせる保護者の方への支援補助金も行っております。事業の総額といたしましては2億6637万1000円の事業費

を計上し、施策に取り組んでいるところでございます。

各項目について詳細を報告させていただきます。

まず1点目、新入学児童・生徒に係る教材費の公費負担でございます。小中学校の入学に係る費用が増大になるため、児童生徒の保護者に請求する教材費を市が助成するものでございます。対象者については、市内の公立小中学校へ通う児童生徒の1年生の保護者及び私立学校や国立県立学校へ通う児童生徒の1年生の保護者です。補助額は、小学校1年生1人当たり上限1万円、中学校1年生1人当たり上限1万7000円で、公費負担額の合計は3351万3000円となります。

続いて、中学生インフルエンザ予防接種費用助成事業です。中学校3年生の受験応援ということで、次のステップに進むことを応援するためのインフルエンザの予防接種に係る費用を助成しております。今年度につきましては、春からのインフルエンザの感染拡大が続いておりますので、令和5年度につきましては、例年以上の感染拡大が懸念されるため、学校生活を共にする中学校1、2年生も助成対象としております。対象者につきましては、市内の公立中学校に在籍する中学生、海老名市在住の中学生で、費用は中学校1年生1人当たり自己負担額1000円で済むように4390円を補助しております。公費負担額の合計は954万7000円でございます。

続いて、修学旅行支援事業です。修学旅行に参加する児童生徒の保護者の負担軽減を図るため、児童生徒の修学旅行に要する費用に対し、補助金を交付しております。対象者は市内在住で、修学旅行に参加する小学校6年生の保護者及び市内在住で修学旅行に参加する中学校3年生の保護者です。費用は、小学校6年生1人当たり1万円、中学校3年生1人当たり1万5000円の補助を行っております。公費負担額合計2950万5000円です。

続いて、野外教育活動推進事業です。野外教育活動に参加する児童の保護者の負担軽減を図るため、児童の野外教育活動に要する費用に対し補助金を交付しております。対象者は、市内在住で、野外教育活動に参加する小学校5年生の保護者です。補助額小学校5年生1人当たり1万4000円（上限）で、公費負担額計1568万7000円でございます。

○健康給食係長 次ですけれども、今までは令和5年度の実施をご紹介いたしましたが、これについては来年度の予定となります。令和6年4月からの中学校給食開始に向け、給食費の設定、保護者負担、学校給食献立について、中学校給食実施検討会でご検討いただき、教育委員会に提言をいただきました。この提言を受け、海老名市学校給食に関する今後の方針を教育委員会で策定し、方針に基づき、中学校給食費を設定するとともに、小中

学校給食食材費の一部を公費負担とすることを検討しております。

公費負担の内容ですが、物価高騰分、地場産食材購入分、子どもたちが楽しめる給食分で、合計で1食当たり約40円を予定しております。公費負担を含めた1食当たりの食材費は、小学校が307.6円、中学校が370円となり、公費負担額は総額約8000万円となる見込みです。こちらの中学校給食費につきましては、12月議会にお諮りして決定するものとなります。

なお、学校給食費に関する公費負担につきましては、現時点での教育部の検討内容となりますので、今後、市内部の調整を経て市議会にお諮りした後に、正式に決定するものとなります。

○就学支援課長 事務局からの報告は以上です。

○内野市長 事務局から説明がありました。

この中でもう1点だけ、スクールライフサポートの説明を補足してくれませんか。

○就学支援課長 スクールライフサポートにつきましては、準・要保護家庭、経済的に困難を抱えられているご家庭で、費目として支給を行うものでございます。例えば学用品費として、小学校1年生2630円、2年生から6年生まで1万1630円、靴ですとか、雨傘ととか、上履きにかかる通学用品費の補助として2270円、校外活動費として、宿泊なしの場合は1600円、宿泊ありの場合は3690円など、各費目に対して支援を行っているものでございます。

○内野市長 それでは、教育委員の皆さんから何か質問ございましたら、よろしくお願いします。

○武井委員 ここまで来ていると、もう質問ではないのですが、内容を見ていて、ずっとチェックしていたのですが、僕は学校を卒業してからもう30数年たって、随分変わった項目が半分以上あるなと思いました。こういった項目があると、子育て世代の方たちは海老名でもう少し子育てを頑張ってみようとか、こういった助成があったらもう少し頑張れるような子育てに対する気持ちが変わってくるなと思いました。

少しだけ心配していたのは、物価高騰による給食費などがあるのですが、これから先もまだまだ分からない、物価高騰があるということなので、そのあたりは皆さんでよく検討して対応していけたらなと感じております。

魅力ある海老名のために、こんなに多くの補助事業があるということは素晴らしいことなので、いろいろな発信の仕方をしていただいて、皆さんに多く知っていただきたいと思

いました。

○濱田委員 丁寧な説明ありがとうございました。先ほど武井委員もおっしゃったように、本当に保護者の負担軽減、非常に細かく配慮されているなと思います。特にここ3年間は、学校、行政、国民の皆さん、みんなそうでしょうけれども、もうコロナの関係で大変苦労したかと思うのですね。ここへ来て、また今度はインフルエンザが急激に流行してきたなんていう話もあります。そのような中で中学校3年生、受験生だけでなく、1、2年生にも予防接種するというのを9月に急遽決められたというのは本当に充実した内容だと思いますので、高く評価したいなと思います。これからもいろいろな幅広い事業について、保護者の負担軽減に取り組んでいていただくように頑張っていきたいと思います。

よろしくお願いします。ありがとうございます。

○平井委員 私が現場にいるときよりはるかに、社会情勢に合わせて本当に教育が変わってきていますけれども、それに合わせて海老名としては、いろいろな形で保護者への負担ができています。これはすごく評価したいなと思います。

評価する部分ではありますが、これだけの内容が負担軽減されているのですが、保護者に一体どれだけ届いているかなという思いが少しあります。これだけのものを税金、皆さんのお金でこのような形で十分な学びが子どもたちにできていると思うのですが、保護者の方たちに知らせていく必要が……。折々には知らせていると思うのですが、やはりこれだけ、私にとったら十分だと思うのですが、こういうものを今後知らせていく必要があるのかなと思います。

1つ、望みたいのは教材費なのですね。私、前から思っているのですが、今、小学校1年生と中学1年生には補助が出ているのですが、これは全ての子どもたちが日々学んでいるものであり、使用しているものであるので、できれば全ての子どもたちの教材費を負担していただければとてもありがたいなと思います。全ての子どもたちが学びをしているわけですから、中学1年という状況ではなくて、海老名の子どもたち全てが十分な教育を受けられるような形でしていただけたらうれしいなという思いがあります。

○海野委員 今、平井委員からもお話があったのですが、保護者の立場からしても、給食のほうも今度大きいところで中学校給食が始まったり、費用負担も少ししていただいたりというところで助けていただいて、教材費という面では、やはり保護者としても負担が大きくなってくるものなので、今お話ししていただいたように、そういうところをまた新た

にサポートしていただけるとすごく助かるのではないかなと思います。

○内野市長 これは本当に難しくて、最近やった選挙でも話題になっていて、県央の厚木、清川、愛川、海老名、綾瀬、座間みんなが集まった首長報告があったのですね。去年頃からその話が出ていて、選挙に勝つために学校給食無償化という話題になっていたのです。これをやめようねという話を去年からしていたのです。これはみんなでやめましょう。これはある程度認識が一致していたのが、清川村長選挙で、清川って子どもの人数が少ないのですよ。無償にしても本当に微々たるお金。どちらかといえば、清川とすると、学校の統廃合があって、中学校2校、小学校2校を今度1校ずつにするということで方向づけられて、これから具体的になっていく。それがあって村長が、人口が増えないということで、どうしても人口を呼び込みたいという形で、この部分をめぐって行われたと思っています。そのとき、清川村長は申し訳ないなという話を他の首長にも言っていたのですけれども、次に厚木の市長選挙があって、小林前市長が無償化についてはやらない方向で、困っている方の部分は厚くしていこう、払える人には払ってもらいましょうねと言っていたのが、選挙があるたびに新しい市長が無償化を訴えて、来年4月から始まるそうです。海老名の人口の大体倍ぐらいありますから、うちが無償化すると6億円出ます。厚木になると11億円出る。これはあくまでも食材だけであって、センターの維持管理費は海老名は5億円かかっています。作るころ。厚木はその倍ありますから10億円。よって、給食に係る予算は、向こうは20億円を超えている、うちがやると10億円を超えるのですね。

この部分が話題になって、今後どうしようかと、綾瀬、大和もみんな言っているのですが、私は無償化は訴えませんでした。質の向上は訴えました。もう1つは、それならば学校給食に関わる問題よりも、教材費を無償化したほうが良いだろうということで検討を進めるということは市民にも発表しました。平井委員、海野委員が言うとおりの、今後、教育委員会で議論していただきたいと考えています。均等に各学校の子どもたちにお金を割り振るのか、あるいは特色を持った教材費にするか。例えば、ここの小学校は学力を上げたというので教材費を集中的にやるのか。ほかの小学校は個性を伸ばす教材費とか、いろいろあると思うのですが、これについては教育委員会に委ねたいと思います。内部ですから。うちのほうでは、その部分で1人頭幾らという平均から取ったものを無償化すると言うならば、無償化する予算をつけます。今の金額でいうと、新1年生に対する教材費無償化で3300万円ぐらいですけれども、全部やると1億2000万円かかります。無償化をやると、ずっと無償化でいきます。そういった部分でいくと、海老名の場合は、この間、厚木

に聞いたら、厚木は7年後に子どもが減るというデータを出しています。7年後に子どもが減るから、無償化をやったとしても問題ない。でも、子どもが減るということは人口が減っているのです。税金を納める方も。そうすると、海老名もその状況は7年後ではなくて、10年後なのです。だから、3年先なのですね。人口は10年後に15万人を想定していますから、その部分については厚木より減少の傾向は遅いことになっています。その部分では今後も議論はあろうと思いますけれども、私は無償化を無視はしていません。今の段階で言うと、教材費を無償化するより問題は、学校の設備がすごく古くなっていて、今、体育館にエアコンを入れようということで、令和6年から2年間で全部入れるのです。あと10何校残っています。それを入れますと、文部科学省の補助金が出るのですが、エアコンの部分しか入っていないのです。エアコンを設置すれば、後は大丈夫かという、周りが悪くなっているわけですから、当然周りもよくしないといけない。そうすると、エアコンだけだと3000万円ぐらいかかるのですが、周りの体育館をよくしますと数億円になってしまう。

学校もそうです。学校も少しの改善を図る。例を挙げますと、座間警察署に今度行ってみれば良いのですが、3億円をかけて改修をやったそうです。去年ですかね。内装は全然変わっていないのです。何が変わったかという、給排水設備が悪いから、設備関係が全部占めてしまって、外装、内装、部屋から全て変わっていない。これは、言い換えれば、門沢橋のコミセンの改修とほかの改修を見れば分かりますが、平均するとコミセンの改修計画は3億円から4億円かかったのですが、門沢橋は図書館と一緒にですから10億円以上使っています。そうすると、ああいうふうになる。全然比べ物にならない。だから、やる時にはお金をかけよう、環境をよくしていこう。そうすると、1校を改修した場合、3億円とか、そんなものでは済まない。ある程度のお金がかかる。そうすると、6億円の無償化をすることが、6億円あると、施設改修の場合は借金ができますから10億円以上の捻出ができます。そうすると、そちらのほうは、環境なのか、食事なのか。そこはやはり保護者の皆さんも考えてほしいということで、教育委員会の中で議論して、保護者の皆さんと議論してほしいなと思います。

子どもたちがふだん使う教室とか、体育館とか、そういった環境と、食事1食、180何食を無償化するのか、どちらが良いか。そういったことである程度選べる時代になってくる。人口が減少した段階ではそれはあり得ると思いますけれども、今後お願いしたいのは、先ほど冒頭お話をしていたのですが、教材費の無償化に向けて教育委員会で検討をお

願いたい。

給食の関係は、検討委員会からいろいろ提言が出ていますから、その提言を踏まえて教育委員会の方針をつくられて、その方針に従って、うちの予算編成でどこまでできるかということを検討したいと思います。教育委員会から出されたものは、満額とはいかないけれども、9割ぐらい認めていますからね。だから、学校に予算がないなんてあり得ませんよ。校長先生がいらっしゃるのですが、そういった部分でどうかよろしく願いたいというのが私の意見であります。

私からは以上であります。

○伊藤教育長 気持ちの入ったお話でしたが、私は少し視点が違うのですが、一応教員だったもので、クラスで子どもたちが集まったときにいつも思っていたのは、子どもたちは様々な家庭環境の中で生活して、学校に来て、クラスの自分の目の前にいるとみんな一緒だというか、例えば今日は朝ご飯を食べなかった子も、ここに来たらみんなと同じようにできる。だから、気持ちだけは、子どもたちみんなが同じように安心して生活できる。それぞれまた家に帰ったら、それぞれの家庭環境で様々な思いをするのですが、ここにいるときだけはみんな平等で、自分で自由に学びが選択できている場所であると考え、それは教材費というか、学校で使う子どもたちの学びの材料になるものは、私は均等であるべきだと思っているのですよ。だから、そういう意味の学びの保障というか、学習の保障はとても大きくて、学校にさえ来れば安心して学ぶことができる。

何を問うかという、私が教員だった頃は教材費を集めていたのですよ。集金袋に書くのですよ。例えば2000円とか、3000円とか。集金袋を子どもに渡すのですよ。ところが、あの頃は先生もろくでもなかったと言ってしまう言葉は変ですが、学校で使うものを払うのは当然だという考え方なのです。だから、選ぶときも、親のことなんか、考えていないのですよ。平気で選ぶ。ひょっとしたら、こちらとこちらを比べたら、こちらのほうが安いかもしれないということを考えないのですよ。セットで買ったりしたら、電池は電池で教材屋に個別で頼んだら安いだろうということも考えないのですよ。でも、そうして選んだのに、出すときは集金袋で、私のように忘れっぽい人は、何日までに集金屋が来るのに、数日前に渡して。家も困るのですよね。どうしよう、こうしようとかなんかというふうになって、集めて、小銭はどうするとかしている、お釣りがないようにと書いてあるので。そう考えると、そういう部分はどうか。私、自分ではそうしたことはないですけども、一番反省をするのは、黒板の端に集金袋を忘れた子の名前を書いてあるのですよ。で

も、学校で使うものを先生が勝手に決めて、一方的なのです。誰にも相談しないでやったものを出して。でも、ひょっとしたら、名前を書く子の中には、家に言ったけれども、逆に家で、お父さん、お母さんに怒られている子がいるかもしれない。何でこんなものをうちに持ってきたのだと言われるかもしれない。だって、先生が渡してと言っていたって。そういうやり取りもある。そういうことを考えると、やはり学校で学ぶ教材は、みんなが同じように安心してやれることが一番良いのかなと違った視点で思うということで、これはまた、教育委員会で協議して、また市長に相談したいなと思いますので、よろしくお願いします。

○内野市長 それでは、よろしいですか。

皆さん方については、3番が終わった後に、時間がありましたら、意見がある人はよろしくをお願いします。

○内野市長 では、2番目のライフ・スタディサポートの推進についてに入ります。よろしくをお願いいたします。

○学び支援課長 事務局から説明させていただきます。ライフ・スタディサポート事業の推進についてでございます。

海老名市では、家庭環境等や経済的な事情により、学習塾等に通うことが困難な中学生に対し、学習サポート等を行うライフ・スタディサポート事業を実施しております。進学
の支援や安心して生徒が過ごせる居場所づくりに取り組んでおります。

ライフ・スタディサポート事業の取組でございます。ライフ・スタディサポート事業では、自立支援法に基づきまして、生活困窮者世帯のお子さん、中学生の方々に、対象世帯には直接郵便でお知らせして、学習のサポートを行っております。海老名市では、対象の中学生と年齢の近い高校生や大学生等が多く講師を務めて、学習面だけでなく、生活面でも相談に応じて、中学校とも連携して授業を実施いたしております。ライフ・スタディサポートの実施なのですが、令和元年に中部地区、令和4年に北部地区、令和5年に南部地区で実施を開始いたしております。

続きまして、ライフ・スタディサポート事業の取組の実際でございます。中部地区では、対象学区は海老名中学校、大谷中学校で、場所は国分寺台地区で、学童保育事業者に委託をしております。週2回、19時頃から2時間実施いたしまして、利用人数は、令和3年は23名、令和4年は27名、令和5年は25名でございます。北部地区につきましては、対

象学区は柏ケ谷中学校、今泉中学校で、場所は東柏ケ谷地区で、地域の方を中心とした団体に委託して行っております。中部と同じく週2回でございます。利用人数は、令和4年は7名、令和5年は14名でございます。

続きまして、南部地区についてでございます。対象学区は有馬中学校で、場所は門沢橋地区で、やはり地域の方を中心とした団体に委託しております。これは、令和5年7月から開始をいたしております。

続きまして、次は中部地区のアンケートの結果でございます。こちらは令和4年度を対象といたしまして、保護者と生徒に対して実施いたしましたものでございます。まず、保護者からは、学習面では、自宅学習をするようになった、本人の足りないところを勉強面、精神面でサポートしてくれているというようなお声をいただいております。生活面では、家庭で過ごせない時間等を楽しく過ごして、精神的に安定し優しくなったという意見をいただいております。

続きまして、生徒の声ですが、学習面は、分からないところをマンツーマンで分かりやすく教えてもらっている、毎回分かるようになってから帰ることができるというような声でございます。生活面では、少し早く起きることができるようになった、イライラしなくなってきたというような改善のお声もいただいております。

続きまして、北部についてのアンケートの結果でございます。保護者の声といたしましては、学習面で、家でも学習するようになった、テスト前など今までよりやる気が見えるようになった。生活面では、学習時間が増え、スマホやゲーム時間が短くなった。という意見でした。続きまして、生徒のほうでは、学習面では、以前と比べて学力を上げることができた。生活面では、スマホを家で見ている時間を学習に替えることができた。このようなお声をいただいております。保護者、生徒ともに満足度については8割以上の高い満足度でございました。

続きまして、ライフ・スタディサポート事業の今後の展開でございます。北部地区につきましては、柏ケ谷中学校区、今泉中学校区で既に実施しております。中部につきましても、海老名中学校区、大谷中学校区で実施いたしまして、南部につきましては今年から有馬中学校区で実施いたしております。西部につきましてはこれからとなりますので、海西中学校区を中心に、これから開設について取り組んでまいります。

雑駁ですが、説明は以上となります。

○内野市長 ライフ・スタディサポート事業の説明がありました。

各委員から質問とかご意見ございましたら、よろしくお願いいたします。

○海野委員 今このご説明をいただいて、アンケートを見ていたのですが、みんな勉強が分かるようになったとか、楽しくなったということでお話がありまして、勉強が分からなくなると、学校に行くのがつまらなくなってくると思うので、すごく良いことなのかなと思っていて。しかも、教えてくれる子たちが高校生だったり、大学生だったりという近い関係で、いろいろな情報ももらえらると思うのですね。なので、これからも続けていってほしいなというのと、今度西部にもぜひ進めていっていただいて、なるべく早く設置できると良いなと思います。

どうぞよろしくお願いいたします。

○濱田委員 説明ありがとうございました。家庭環境等で大変難しいご家庭のお子さんたちに対して、非常に手厚い手を差し伸べていると感じております。ただ、対象人数というか、定員と示されている人数が、会場のスペースの関係なのかもしれませんし、委託先の皆さん方のご事情かもしれませんけれども、もしかしたら対象者がもっといらっしやつて、利用人数が増える可能性もあるかもしれませんし、利用した人が次の世代になって、また下の世代の方をサポートしていくような良い循環ができればよろしいのではないかと思いますので、これからも地域にお声かけをして、広げていっていただければと思います。

○武井委員 大変すばらしい事業だと思っております。一番感心するところは、そういったところに通いながら、卒業した後、進学できるということです。これからも手厚くサポートしていただければと思っておりますので、これからも継続して行ってほしいと思います。

○平井委員 中部、北部、南部につくってくださっているのはとても良いことだなと思います。ただ、北部の中で気になるのが、柏ヶ谷中学校と今泉中学校ということで、子どもたちが学びの場所に行くのにどうなのかな。昨今のこういう社会状況の中で少し気になるところではあります。今後いろいろな形で検討していくことになると思うのですが、できれば中学校ごとぐらいにできて、気軽に通えるシステムになっていくと良いのかなと思います。

○伊藤教育長 ということで、整備を急ごうかなと思っています。海西中学校区なのですが、西口、編入エリアごとに今泉中学校の子ども、海西中学校の子ども簡単に移動できると言ったら言葉が悪いですけども、そういう意味で今後できるだけ早く整備、開設したいな

と考えています。

全体のあれからすると、有馬中学校区、私、南部だったのですが、実を言うと、これ、海老名高校に教えてくれる人はいませんかというポスターを貼らせてもらったのですよ。そうしたら、海老名高校の子たちがそれに応募してくださって、私が聞いたのは5人ぐらいの子たちが支援してくれるということで、実際、海老名高校の子どもたちが南部の学習支援についてくれていて、すごくありがたく思っているところでございます。

あと1点は、こういう経済的困難などが対象なのですが、実は様々困っている支援の子どもたちが対象になるともっと良いのですが、これ自体は福祉、厚生労働省の事業を教育委員会が受けたので、もともとの制度は生活保護家庭だったので、そういう縛りではなくて、様々な支援が必要な、困っている子どもたちに行き渡るような広がりがあると良いなと考えています。これが1つの考え方でございます。

私からは以上です。

○内野市長 問題は、本来の文部科学省がここに目を向けないといけなくて。厚生労働省が向けているから、それが1つの大きな原因なのです。皆さんご存じのとおり、幼稚園は文部科学省なのです。保育園は厚生労働省なのです。これを一緒にしようと言って、子ども家庭庁をつくろうとしたら、相当抵抗があって、やめてしまったという話があって、国の制度そのものが一定のあれを持っていないから、このような形になっているのだろかなと思います。本来私は文部科学省だと思うのです。文部科学省が一番金が取れない省庁と言われています。この間、さっき言った学校給食の問題で文部科学省に言ったときに、文部科学省もいろいろなことで上げたいのですよ。それが全部カットされた。意外と教育現場から見た意見を文部科学省が踏まえて、では、やろうかといったときに予算請求すると、財務省にカットされて終わりになる。文部科学省の予算が一番切りやすいのです。国の制度として、いろいろな問題がここにあるのではないだろうかとは私は思っています。市町村の長の責任としては、良いものはどんどん伸ばしていきたい。平井委員が言ったとおり、学校が動いてくれないと、中学生ですから、夜間の実施です。昼間は学校があります。高校生が教えていても、9時以降に帰るとなるとやはり危険なので、その辺についてはきちんと整備しながら行っていきたいと思っています。

そういったときに、今日は校長先生もいらっしゃると思うのですが、学校の協力が不可欠なのです。場所をつくるというか、家賃とか、いろいろやると大変なのです。学校は7時以降は空いているではないですか。学校が、そういう設備が必要ならば夜間出入りでき

るような設備をきちんとつくりたいと思います。高校生たちが帰るとき。これは学校のほうでも協力してほしいし、そういった中学校の校長先生とか、先生がいらっしゃったら、困っている方をこのように誘導していくことも必要なので、学校の校長会でもいろいろな議論をしていただいて、小学校でも、中学校でも構わないので、一部こういった施設を使っても良いということになれば、うちのほうでは実施したいので、そういった部分では、私ども学校は社会資本と考えていますから、学校というのは、夜はいない、土日はいない、そういった部分はどんどん開放していくべきだと思っていますので、こういった良い事業にぜひとも協力をお願いしたい。それは、教育委員会の内部でも議論をお願いしたい。

ですが学校と話すと、なかなかうまくいかないらしいのです。学校が一番良いわけですよ、全て整っているから。支援している人たちは、夕飯を食べてこないお子さんがいたら、カップラーメンでも良いから何か食べさせてあげたいと思っている。ところが、お湯を沸かすのにも厨房がない。学校は全てあるではないですか。だから、そういった部分を含めて学校の協力を仰ぎたいな。維持管理などは私のほうで保障していきたいと思うので、安全管理とか、そういう部分をお願いしたいなと思います。

私からは以上であります。

○内野市長 3 番目、特色ある図書館運営の推進について説明をお願いします。

○学び支援課長 特色ある図書館の推進についてでございます。指定管理者制度の継続の決定についてというところから説明させていただきます。

海老名市では、施設の管理運営を民間の事業者が行う指定管理者制度による図書館の運営を行っていますけれども、令和 5 年 3 月開催の定例教育委員会等で指定管理者制度の継続と第三期、令和 6 年度からの期になりますが、こちらの基本方針が決定されました。また、中央図書館と有馬図書館両館の立地や地域特性を生かした運営を実施して、第三期基本方針等を達成していくために中央図書館と有馬図書館・門沢橋コミュニティセンターをそれぞれ分けて公募を行いました。

参考にごきますように、現在はいびな学びコンソーシアムというところが中央図書館と有馬図書館・門沢橋コミュニティセンターについての運営を実施しているところでごきます。

続きまして、第三期、令和 6 年度からの図書館の基本方針でごきます。地域の特性を

生かした愛される場所へ～みんなの未来・居場所が「図書館（ここ）」にある～といったものでございます。中央図書館については、新しい学びが見つかる空間、有馬図書館・門沢橋コミュニティセンターについては学びとコミュニティの空間について目指しているものでございます。

続きまして、指定管理者制度の継続＜スケジュール概要＞についてでございます。こちらにつきましては、下の部分をご覧くださいまして、令和5年3月に指定管理者制度の継続について決定を行ったところでございまして、6月から10月にかけて、令和6年度からの指定管理者の選定について公募を行いました。そして11月、ここで、令和6年度以降の指定管理者候補者について決定いたしました。12月に第4回定例市議会にて正式に指定管理者を決定いたします。そして、令和6年4月から指定管理者による運営、新たなといいますか、開始いたします。

続きまして、令和6年度からの指定管理者候補者の決定についてでございます。中央図書館につきましては、カルチュア・コンビニエンス・クラブ株式会社、有馬図書館・門沢橋コミュニティセンターについてはTRC・相鉄企業体、こちらは株式会社図書館流通センターと相鉄企業株式会社の共同企業体が指定管理者候補者として決定いたしております。

続きまして、第三期指定管理者候補者の決定の経過についてでございます。公募は6月から7月まで行ったところでございます。そして、選定委員会を開催いたしまして、その選定委員会の中で評価等いたしまして、決定いたしました。令和5年8月に第1回選定委員会、令和5年10月に第2回選定委員会を行ったものでございます。そして、こちらの指定管理者の選定理由及び評価についてでございますけれども、現在の指定管理者であることから、運營業務における事業の継続性が保たれて、施設の利用者に対して継続的な支援を行うことができる点が高く評価されたこと、図書館の利用者を増加させるための実現性のある提案や地域連携の方策、サービス向上に関する提案が示されていること、中央図書館の個別方針「新しい学びが見つかる空間」、有馬図書館及び門沢橋コミュニティセンターの個別方針「学びとコミュニティの空間」を目指して、民間のノウハウを生かした魅力あるサービスを期待することができることなどが評価されたものでございます。

続きまして、図書館の新たな取組についてでございます。こちらはまだ調整中で、未定ではあるのですが、中央図書館については、まず学習席の予約。今は図書館に行かないと予約ができないのですが、スマホ等で学習席の予約ができるようにするといったものでござ

ざいます。続きまして、2点目、お知らせやイベント情報の入手は、お知らせやイベント情報等がスマホ等に届いて、ホームページを見に行かなくても情報が分かるようになるといったものでございます。図書館等におけるイベントの予約は、スマホでイベントの申込予約ができるようになるといったものでございます。

続きまして、有馬図書館の新たな取組一例（調整中）でございます。こちらは、ぽけっと図書館というものを、タブレット端末を使って学校図書館を生徒が検索できるようにするものでございます。こちらの導入について検討してございます。続きまして、調べる遊び学習コンクールは、物語の主人公になろう♪というコスプレコンクールを新たな取組としたいという提案があったものでございます。続きまして、アウトリーチサービスは、近隣の高齢者施設等に大人向けの紙芝居の読み聞かせや電子図書館サービスの出張講座を行っていくもの。あと、地域のお祭りとかイベントに図書館が出張講座等で参加したり、協賛したりとかして、地域連携を図っていくような提案がなされておりました、今調整を行っているところでございます。

市民の方にとってよりよい図書館となるように、これからも推進してまいりたいと思います。

雑駁ですが、説明は以上となります。

○内野市長 定例教育委員会で方針が決まって、このまま受け止めて、12月議会に上程ですけれども、何かございましたらお願いします。よろしいですか。

本当に短く言いますけれども、1つだけ。毎朝出勤すると、図書館の前を通っていくと、開館する前の図書館の前に50人並んでいる図書館なんて、どこにもないと思っています。全国で図書館開館前に並んでいるなんて、数人は並んでいますけれども、何十人と並んでいるのが海老名の特徴だと思います。それだけ勉強したい子どもたちが来ているということと、1つ言えることは、昔の中央図書館。当時は寝ている人が本当に多かったのです。図書館は涼しいから。上から見えるのですが、上からぱっと見ると口を開けて寝ている人が多かった。今はみんな図書館を楽しんでいる雰囲気があるなとつくづく思っています。

指定管理については議会でもいろいろな議論があることは確かですけれども、私も市の職員であって、労働組合をやったときに、図書館の運営がすごい問題になったのです。直営で運営していたとき、図書館の職員から、土日出勤するから、絶対週休二日制なのだから、土日を挟んで休ませてくれ。例えば金土、日月、そういう話が出てきた。それを労働

組合として教育委員会ともいろいろ労使交渉を行って、獲得した。そうすると、土日は正規職員が半分しかいない。今はほとんどオールマイティーで行っていますけれども、問題はそこなのですよ。こういった不特定多数が多く来る施設が公務員の労働条件に向いているか、向いていないかという問題が確実にある。法律が変わったらできたのですが、これは社会の状況ですけれども、公務員だけでやると、火曜日と月曜日が休みだったのですが、どうしても土日に代休を取りたいという人がいて、半分しかいない状況でも運営できていたのが実態だったのです。これが今、民間になったことによって、中央図書館は365日開館していますから。あのときは1階と2階しか開放していませんでした。3階が教育センター、4階がプラネタリウム、地下は書庫になっていた。今は地下1階から4階、全部使っています。それだけスペースが広がったから、前よりお金がかかっているのではないかと思います。

逆に言うと、前回、有馬と中央で14万人しか来館しませんでした。14万人って多いと思うのですが、家内は月に2回ぐらい図書館に行っていたのですよ。そうすると、割ってみると、実数は少ないのですよ。今の図書館は70万人で、相当な数が来ているということで、それだけお金をかけたとしても、多くの皆さんがいらっしゃるということで、今、タワーマンションが建っている通りや何か、昔は誰もいなかったのが、今は海老名駅から図書館に向かっていく人がすごく多くいらっしゃって。だから、コンビニもできたし、タワーマンションもできたり、いろいろなことがありますけれども、今後、こういったものをできるだけ市民の皆さん、利用者の意見を聞きながら改善していきたい。それは教育委員会の管轄でありますから、指定管理者の選考は市長部局で選考委員会を開いています。その責任がありますので、それは両者、教育長と話しながらいろいろな対応を決めたいと思います。

それでは、5分程度ありますけれども、皆さんからこれだけは聞きたいというのは何かありませんか。よろしいでしょうか。

それでは、司会にお返しします。

○教育部次長 内野市長、大変ありがとうございました。これで次第3の協議事項は終了させていただきます。

この後、次第4、学校発表に移りたいと思いますが、会場の準備をさせていただきますので、15分程度休憩とします。11時10分から再開をしたいと思います。よろしくお願いいたします。

(第2部 学校発表)

○教育部次長 ありがとうございました。学校発表と貴重なご意見をいただきました。それでは、以上をもちまして、令和5年度第3回海老名市総合教育会議を終了させていただきます。次回は来年の3月16日に予定しております。多くの皆様にご参加いただければと思います。本日は長時間にわたり誠にありがとうございました。皆様お忘れ物ございませんようお気を付けてお帰りください。